

**製品名: EpCAM ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21500**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:35kD;Observed MW:40kD

**抗原情報**

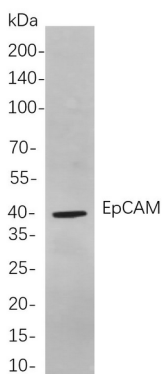
遺伝子名	EPCAM EPCAM;GA733-2;M1S2;M4S1;MIC18;TACSTD1;TROP1;Epithelial cell adhesion molecule;Ep-
別名	CAM;Adenocarcinoma-associated antigen;Cell surface glycoprotein Trop-1;Epithelial cell surface antigen;Epithelial glycoprotein;EGP;Epithelial gly
遺伝子 ID	4072.0
SwissProt ID	P16422
免疫原	ヒト EpCAM の合成ペプチド

**背景**

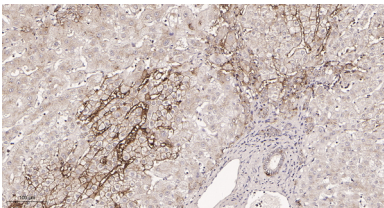
細胞局在: 膜。この遺伝子は癌関連抗原をコードし、少なくとも2つのI型膜タンパク質を含むファミリーに属します。この抗原はほとんどの正常上皮細胞および消化管癌に発現し、同型のカルシウム非依存性細胞接着分子として機能します。この抗原は、ヒト癌に対する免疫療法の標的として用いられています。この遺伝子の変異は、先天性房状腸症を引き起こします。[RefSeq 提供、2008年12月]

## 研究分野

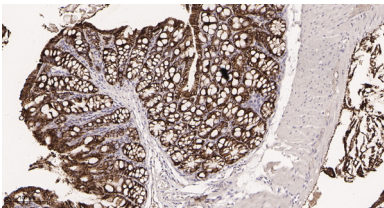
## 画像データ



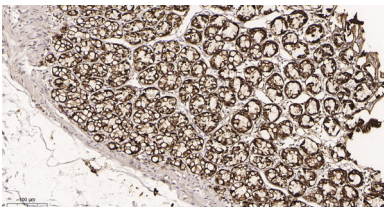
HCT-116細胞のライセートのウェスタンブロット解析 (EpCAM ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



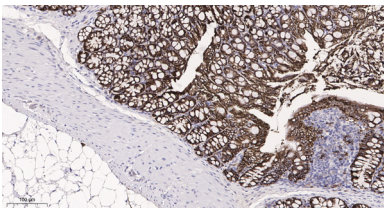
パラフィン包埋ヒト肝臓組織の免疫組織化学分析。1、EpCAM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



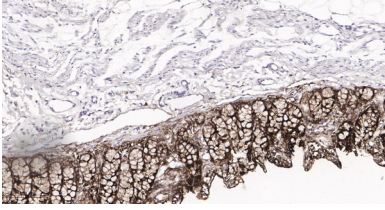
パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、EpCAM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、EpCAM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、EpCAM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、EpCAM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた（>98°C、20 分）。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。